

京都部部報

2号/2020-2021度版 BULLETIN



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区



JAPAN WEST

京都部部長主題

「人生は一度きり」～出会いから全てが始まる～

京都部部長

中村隆司 (京都ウェル)

西日本区理事主題

「“Let's do it now!”」

副題 「2022に向け誇りを持って “All is well”」

西日本区理事

古田裕和 (京都トゥービー)

国際会長主題
スローガン

“VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP”

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE.” 「命の川を信じよう」

国際会長 (IP)

Jacob Kristensen (デンマーク)

アジア太平洋国際地域会長
主題: スローガン

“Make A Difference” 「変化をもたらそう」

“INSPIRE” 「奮い立たせよう」

アジア太平洋地域会長 (AP)

David Lua (シンガポール)

上半期を終えて

京都部部長 中村 隆司 (京都ウェルワイズメンズクラブ)

京都部の皆様こんにちは！昨年とは何かとお世話になり有難う御座いました、今年も一年どうぞ宜しくお願い致します。そして新型コロナウイルスの影響でお亡くなりになられた方や、被害を受けておられる皆様にお見舞い申し上げますと共に、最前線でご活躍させている医療従事者等の皆様に感謝申し上げます。

さて前期の島田部長からバトンを受け継いでから早くも半年が過ぎ、上半期があったという間に終わってしまいました。コロナ禍の中でのスタートという事で事業等への影響が予測出来た為、事前に主だった活動の中止や自粛は発表しており、想定通りと言えば想定通りですが、やはり部会やワイズデーが開催出来ず、思っていた活動が出来なかった事は非常に残念であります。ただそのような中でもYサ・ユース事業に関しましては、YMCAの事業のサポートを主とし、コロナ感染拡大に注意しながら大体の活動は実施出来たと思います。そして地域奉仕・環境事業に関しましては、各クラブがアイデアを出し、知恵を絞り、独自にされておられる児童養護施設や障がい者施設、そしてサポート犬等の動物に関わる施設のサポートや、学童野球大会、清掃活動等を積極的に実施して頂きました。またEMC事業に関しましては、このような社会情勢の中にあいながら各クラブが積極的に新入会メンバーを獲得され、終盤に退会者が数名おられましたが純増12名という結果を残す事が出来ました。残念ながら国際・交流、メネット、PR事業に関しましては、やはりコロナ禍の影響で活動が難しい状況でしたが、色々な制約があいながらも出来る限りの取り組みを行って頂きました。そして部長公式訪問も中止とさせて頂きましたが、例会開催が可能なクラブに関しましては部長非公式訪問という形で伺わせて頂き、親睦交流の時間を持つ事が出来た事は嬉しい限りで御座います。大変な状況の中、半年間ご尽力頂きました皆様に心から感謝申し上げます。さて下半期ですが、コロナ禍も落ち着き、そこそこは活動が出来るかなと思っていた矢先の2回目の緊急事態宣言で、またまたこの先どうなる事やと思っておりますが、意気消沈ばかりしてられません。勿論メンバー一人ひとりの命と健康を最優先にして頂き、決して無理はなさらないで頂きたいですが、苦境に陥りながらも何とか工夫をし、今できる事を模索しながら活動を行って頂きたいと思っております。これからは良質な非常識、まさしくニューノーマルな取組みが必要になってくると思っております。そして目配り、気配り、心配りを忘れず、誰ひとり取り残さない、誰も置き去りにしない気持ちを大切に半年間ご尽力頂きたいと思っております。

最後に一言、「楽しくなければワイズじゃない！」下半期もどうぞ宜しくお願い致します。



■上半期を終えて 部役員



直前部長 島田 博司
京都ウエストワイズメンズクラブ

半期を終えこのコロナ禍の中、直前部長として京都部に携わってきたわけですが、中村部長以下京都部役員の皆さんやクラブ会長様におかれましては、たいへん歯がゆい思いをもってこの半年の事業をされてきたことと思います。計画してきた事業や懇談会が開けない。リアルな集会ができない。その中でもこの状況をなんとかしたいという想いで、感染拡大に配慮し工夫をされ、なんとか半期を終えることが出来たのではないのでしょうか。そしてこれからという時に第3波の影響が京都にも出始め、私自身またかという気持ちでいっぱいです。ですがこの大変な状況の中でも、私たちは前に進まなければなりません。より一層役員一同が一枚岩になり、中村部長を支えなければと気を引き締め後期に臨みたいと思います。最後になりましたが日夜、最前線で対応しておられる医療機関の皆さまに心からの敬意を表し、この状況が一刻も早く終息し、医療従事者の皆様、全ての皆様が安心して笑顔で暮らせる日々が戻ってくる事を心よりお祈りしたいと思います。



監事 川上 孝司
京都パレスワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区で活動を進める京都部の私たちは世界の同じ思いを持つワイズメンズクラブの仲間と繋がって活動をしています。そこで気になったのが西日本区定款です。国際憲法及び東日本区定款と西日本区定款のクラブの目的は奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。とあります。国際憲法及び東日本区定款においては、YMCAのための（奉仕）サービスクラブとして活動する。とあります。

1997年、国際協会日本区から東と西に分かれるとき、西日本区定款作成委員会が組織されています。そこで西日本区独自の活動形態を作ろうと考えられたように思います。私たちが今使っているロースターを見ますと西と東の違いがよく解ります。西ではYMCA・ユースサービス事業と地域奉仕環境事業は別の事業とされていますが、東におきましては地域奉仕・YMCAサービス事業と一事業になっています。要するに地域奉仕活動はYMCAが行う地域奉仕活動をサポートするとなっています。それに対し西ではYMCAが行う地域活動やユースが行うYMCAを通じて行う活動をYサ・ユース事業としワイズが独自で行う地域奉仕活動をCS事業とすることが多いようです。そういう意味では西日本区においては、一般奉仕クラブ的要素と自由性が少し入っているように思います。そして多くの市民にワイズメンズクラブ通じてYMCAを広く知って頂こうといった意味もあるように思います。このコロナ渦そして今後しっかりと世界のワイズメンとしっかりと手を取り繋がり力を合わせ修復をしていかななくてはなりません。



統括担当主事 藤尾 実
京都 YMCA

昨年7月に始まったワイズメンズクラブ京都部中村部長期も上半期が過ぎました。今期は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染が世界にひろがり、ワイズメンズクラブの活動も例会や地域奉仕、国内外の交流、EMCなど通常の活動を当初の予定通りおこなうことが困難になりました。

そのような中でも、サバエ教育キャンプ場・リトリートセンターの維持管理ワークやリトリートセンターオータムフェスタ運営、京都YMCA活動継続寄付金など、京都YMCAの諸活動に多大なご支援をいただき感謝申し上げます。現在、京都YMCAでは、「地域から必要とされる存在になる」を主題として、新たに中期計画を策定し、2023年までの3か年に既存事業や組織の改革を進めていこうとしています。この中期計画において、京都YMCAは、わたしたちの地域での存在意義を、改めて問い直し、この新型コロナが失わせた人々のつながりの再生や地域社会の課題に取り組むはたらきをしていかなければならないと思っています。その取り組みを、ワイズメンズクラブメンバーのみなさんと共にすすめてまいりたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

■上半期を終えて 部役員



書記 今村 隆宏
京都ウイングワイズメンズクラブ

第 25 期の京都部は中村部長の『人生は一度きり』～出会いから全てが始まる～を部長主題に掲げられスタートを切りました。約 1 年前、部役員、事業主査のメンバーが決まり、準備三役会、準備役員会を重ね、京都部の各会長様を交えての京都部懇談会での顔合わせでは、ワクワクとした気持ちになった事を今でも覚えています。まさかその後、世界が一変する様な事態になるとは…。この上半期では様々な状況を見ながら、各クラブの方々が知恵を絞りクラブの在り方や例会のやり方などを考えられたと思います。この様な状況でもメンバーの増強をされているクラブは素晴らしいと思います。京都部会も中止になり各会長様の晴れ舞台も延期になりましたが、どうか今年は盛り上がりたいたいものです。書記として 25 期の半分のお役目は終わりましたが、消化不良です。医療従事者の方々は命を懸けて戦っておられます。また命を落とされた人もおられる中で、私は with コロナという言葉が大嫌いです。一日も早い終息を願うばかりです。コロナも第三波で先の見えない日々が続いてますが、下半期もよろしくお願い致します。



書記 松田 博一
京都ウェルワイズメンズクラブ

皆様こんにちは。今期、京都部書記を拝命しております、京都ウェルクラブの松田と申します。皆様には、いつもお世話になり、大変感謝しております。どうか後半の半期もよろしくお願い致します。さて、今期はコロナ禍第 1 波の中、決して順調とはいえない状態で始まりました。幾つかのクラブが活動休止を決定される中、京都部会も中止となってしまいました。そんな中、We b を利用した新しい試みも始まり、今までと違った形での活動も始まりました。しかし、このような状況で、多くの方が健康被害にあわれているのも事実です。医療体制もひっ迫しています。政治家の行動を揶揄しているだけではなく、更に気を引き締めながら、活動していかなければならない状況であることには変わりありません。この後の半期も、さほど状況が良くなるとは思えませんが、必ず乗り越えられることは間違いありません。コロナを絶滅させることはできませんが、コロナに負けない知恵をきっと持つことができると思います。まず私たちが人のお世話にならないように気を付けながら、少しでも社会に役立つ活動を行いたいものです。あと半年、どうかよろしくお願い致します。



会計 蒔田 茂夫
京都プリンスワイズメンズクラブ

京都部の会計たる大役を拝命してから半年が経ち早くも上半期も終わりました。はじめてのお役目、全く余裕は無かった 6 ヶ月間。若輩会計を支えてくださった京都部長をはじめ部役員や各事業主査の皆様へ感謝致します。この半年をふり返りますと新型コロナウイルスの感染拡大によりワイズ活動は疎か私たちの社会生活に多大な影響を受けた事は言うまでもありません。迎える下半期も今まで当たり前だった事が当たり前にできない等がゆえの事業の変更や延期、社会生活においては新しい様式での生活等先行きの不安や心配は尽きません。しかしながらどのような困難な状況に陥ろうと、皆様と協力しあい知恵を出しあい楽しく明るく元氣よく過ごしたいものです。あと半期、どうぞ宜しくお願いします。

■上半期を終えて 部役員



事務局長 西村 和真
京都洛中ワイズメンズクラブ

今期半期が終わり、皆様におかれましては思い通りのクラブ活動が出来ない状況に歯がゆい思いをされていることと思います。今までに経験したことのない感染症との戦いに我々すべての人類が困惑し、何をすれば最善なのか迷いながら決断を迫られる、そんな日々が続いています。しかし我々は前を向き、一つ一つ答えを模索していくしかないと思います。この期間、いつもよりも色々なことを考えて考えて、我々は人としてより強くなっていると思います。必ずこの戦いに勝てるはずです。最前線で戦っている医療従事者の方々にも敬意を表し、我々も一致団結して戦っていきたいと思います。下半期も皆様と情報を共有し、より良い未来への答えを探し続け活動していきたいと思います。そして、今期が終わるころ皆様が一年間を充実した期だったと思えることと、ワイズメンであって良かったと思える。そんな下半期にしたいと心の底から思ってます。下半期も宜しくお願い申し上げます。

■上半期を終えて 事業主査



主 題 「まずは、参加!!」
YMCAへの支援が喜びとなる日

YMCA サービス・ユース事業主査

幡南 進

京都キャピタルワイズメンズクラブ

上半期が終わりました。コロナ感染拡大への終息がもう少し早い段階に考えていた期首。現在まだ先が見通せない状況ではありますが、幸いにも Y サの屋外事業については、いくつか開催されました。ワイズメンズクラブの活動も縮小される中キャンプ場の準備ワークとオータムフェスタについては快晴の中、大きな成果を上げる事が出来たのではないのでしょうか。限られた活動範囲の中で、それでも

YMCAの為にとご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。下半期につきましては多くの事業は予定されています。直前期に開催できなかったチャリティランも、新たに場所を変えて盛大に開催する予定です。他にもフォーラムやチャリティ、フェスタもあります。ご準備いただける皆様、先行きが見通せない今でも、夢をもって開催する事。参加者の喜ぶ顔を思い浮かべる事。前を向いて参加頂けます事に感謝するとともに、平穏な日々となり、下半期の事業が多くの皆様とご一緒できる事を楽しみにしています。その時には皆様「まずは参加!!」是非とも YMCA との係わりを深め、いつの間にか喜びと変わっている事に。



■上半期を終えて 事業主査



主
題

地域奉仕・環境事業から “今”出来る事をひとつひとつ

今期も早いもので、もう半分が終わってしまいました。会長の経験もない私が地域奉仕・環境事業主査という大役を仰せつかり、今期の初め頃は不安と心配で胸がいっぱいでした。ですが、役員の皆様に助けて頂き、自クラブの以外の方との交流がこんなにも楽しいものだったのかと実感できる様になりました。今、私が経験させて頂いていることは中村部長が地域奉仕・環境事業主査として私を指名して頂いたからこそ感謝しております。初めて他クラブの例会で壇上でのスピーチでは“汗だくの汁だく”で自分でも何を話したのか頭の中が真っ白になりました。他クラブでの事業ワークでは、今まで経験した事のない経験をさせてもらえたりと、少しずつですが大勢のワイズメンと知り合い「的場くん」と声をかけてもらえるようになってきたかなと自負しております。この経験はこれからの自分の大切な財産なと思っています。上半期は新型コロナウイルスの影響でなかなか思うような活動が出来ておりませんが、下半期にはコロナ禍においても行える事業を模索し京都部の各クラブの勢いをサポート出来るように頑張ってお活動していきたいと思っています。そして、今期が終る頃には「コロナ禍に負けないで完全燃焼した！」と胸を張って宣言出来るよう目指しておりますので、下半期もご協力を皆様何卒よろしくお願いいたします。

地域奉仕・環境事業主査

的場 幸生

京都トップスワイズメンズクラブ



主
題

古き力を礎に若き力を！

EMC 事業主査の京都 ZERO クラブ 坂口祐司です。
このコロナ過の中、今期も半分が過ぎました。大変な情勢の中、2度目の緊急事態宣言という昨今、様々な形で皆様のワイズ活動の御尽力、感謝しております。スタートから私としては、メンバー増強という事が言いにくい中、現在順調に京都部のメンバー数も増加し、退会者も1名という結果で大変喜ばしく思います。ただ、2回目の緊急事態宣言でこれから先、経済的打撃を受ける方も多く出てくると思います。もちろん当初掲げました私の主題の気持ちは変わっておりませんが、これからいつまで続くか分からない情勢の中、よく耳にする「ニューノーマル」、この言葉の意味の通り、今までの当たり前が当たり前にならなくなる事が多々出てくると考えております。ワイズ活動においても新しい形での活動方法に挑まなくてはならなくなり、そうなれば今までメンバー候補の方に伝えなかった楽しさも新しい形で伝えなくてはならない事が出てきます。そしてクラブ自体の活動方法も各クラブがよく考え、新しい取り組みに積極的に取り組んでいくべき時代に突入したと感じております。このまま退会者が増えず、メンバーが増えていく事がベストではありますが、このタイミングだからこそ、新しいクラブの楽しさを生み出し、そして新しい伝え方を考えて頂く事が必要です。その取り組みがまた新しい感性を持った、素晴らしいメンバーを迎えられると信じています。残り半期にはりましたが、皆様が健康で、前向きに活動していける事、そして楽しんで頂ける事が第一のEMC活動に繋がると考えています。大変な時期と言葉で言う事は簡単ですが、強い気持ちを持ってこの情勢を乗り越えていきましょう！

EMC 事業主査

坂口 祐司

京都 ZERO ワイズメンズクラブ

■上半期を終えて 事業主査



主
題

交流はワイズの醍醐味！

国際・交流事業主査

牧野 万里子

京都ウエストワイズメンズクラブ

早いもので、今期も上半期が過ぎました。7月、コロナの感染者数も減りつつあり、下半期は気兼ねなく皆とワイワイ楽しく交流できることを信じてのスタートでした。ところがそんな平和な日々は束の間、8月には第2波、そして年末からはすごい勢いで第3波の感染拡大が続いております。京都部も上半期は活動中止、そして今だに各クラブの活動も制限せざるを得ない状況が続いております。

そのような中、まず7月に京都トゥービークラブさんのオンラインによるIBC交流、そして京都クラブさんの台北とのIBC締結計画、京都ウエストクラブさんからのブリテンを通じての交流など、今までにない新しいスタイルの交流の報告をいただきました。また海外のクラブではネパールのルンビニクラブさんが日本のクラブとのIBC締結を検討されており、北九州クラブさんとのZOOM交流会を開催されたとのことでした。上半期を通じて感じたことは、“ワイズメンは交流が大好き、交流をあきらめることなんてできない！”という友情を大切にする熱い思いでした。下半期もまだまだ密を避けなければいけない日々が続きそうですが、“with コロナ”、コロナ禍だからこそできる、濃密な充実した交流活動ができることを願っております。下半期もどうぞよろしくお願いいたします。



主
題

「和・輪・笑」

～和みを持って輪をつくり笑顔になりましょう！～

メネット事業主査

中村 典子

京都ウェルワイズメンズクラブ

例年とは違った状況の中、上半期を終える事が出来た事感謝申しあげます。メネットの皆様とは勿論の事、メンバーの方々とも中々思うように交流の出来ない上半期となり、どのような活動が出来るのかを模索しながら時間が過ぎてしまったように思います。各クラブ、活動を休止されたりwebやソーシャルディスタンスを駆使しながらの例会を行っておられる中、メネットの方々との交流や活動のお願いをする事に消極的になってしまっていたように思い反省しております。そんな中、メネット献金については例年とは違うお願いをさせていただきました。各クラブより京都部に振り込んでいただき、京都YMCAの子ども達の為のキャンプ事業に役立てていただくという案です。早速にご協力いただいたクラブの皆様、有難うございました。引き続き受けさせていただきますので、主旨をおくみ取り頂き、ご協力の方、宜しくお願い致します。下半期も社会情勢の不安定は続く事が予想されますが、皆様の健康を一番大切に考えながら出来る事を精一杯頑張ろうと思っておりますので、引き続き宜しくお願い致します。



■上半期を終えて 事業主査



主 題 出会いから始まるワイズの輪。 楽しみを伝えよう！

PR 委員長

近藤 敦无

京都東稜ワイズメンズクラブ

今期、PR 委員長を任命いただいて早くも半年が過ぎました。今年は新型コロナウイルス感染対策により、前期後半からクラブ運営が大変難しく、計画から対策、実施に向けてものすごく苦勞されて知恵を出し合い運営されているのを肌で感じています。京都部においては、京都部会、ワイズデー、部長公式訪問が中止となり、他にも大きなイベントが軒並み中止となり、結果の残せない大変厳しい半期を終える事となりました。その様な状況下で、京都部PR委員会として、どの様に各クラブとの関わりを持ち、どの様にして支える事が出来るのか？ 色々出来る事を考えるのですが、年末に向けての第三波の影響は厳しく、自粛せざるを得ないという状況がより濃くなっております。PR委員会としては、表向きの活動が中々進める事が出来ない中、将来に向けての京都部PR委員会の役割を再確認して、活動や役割の見直しを行い、京都部ホームページとSNSを利用した広報に努めております。我々が支えるべきYMCAの事業も中止や延期となるケースが多く、オンラインによる開催も増えました。先日行われたYMCAクリスマスコンサートや、来年早々に予定されているオンラインチャリティーラン、それらもSNSを通じて情報を発信して、広報活動を行うのですが、その難しさを痛感しております。京都部ホームページやSNS等のツールについては、皆様に見ていただいてこそ力を発揮します。PR委員会としても、皆様に見ていただきやすく必要な情報が必要な時期にご覧いただけるように努めて参ります。皆様のこれまでのご協力に感謝申し上げますと共に、引き続き、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



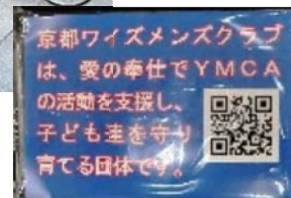
■上半期を終えて 各クラブ会長



主題

「未来に繋がる形作りを」

京都ワイズメンズクラブ
会長 坂口 大輔



○上半期活動の報告

昨年からのコロナ禍の影響により、十分なクラブ事業が行えなかったが、例会の出席における高齢者、医療従事者などのホテルでの会食に参加できない方への配慮から、例会時の食事代に相当する会費の一部返金を行い、会員の負担を軽減し、限られた状況の中で、事業を行いました。また、毎年実施しているじゃがいもファンドやゼロクラブさんのお肉ファンド(相席ファンド)などの協力ファンドも行いました。さらに、京都クラブ独自で、自粛ムードの中、ワイズデーでは、京都三条YMCA入り口前にて、バナー広告の作成及び掲示を行いました。当日、京都クラブの活動をPRするポケットティッシュの配布も行いました。年末には、毎年恒例の京都三条YMCA 1階に、クリスマスツリーの設置と建物内外部のイルミネーションの設置を行いました。京都部長より依頼を受け、コロナ禍で例会開催ができない各クラブのために、ワイズソングのCD作成(19枚)を行いました。

○下半期の抱負

残り半年になりますが、この自粛ムードの中、できる限りの活動を行い、メンバー間のつながりが希薄ならないように、精一杯頑張ります。



主題

『誇れる未来創り』
”Pride of creating the future”

副題

「楽しみ」をつくろう

京都パレスワイズメンズクラブ
会長 吉岡 幸次



今期はコロナ事情で9月スタートとなり、まだ5ヶ月しか経っていませんが半期を迎える事となりました。コロナの感染拡大が第二波、第三波と容赦なく訪れ、感染予防対策を強化しながらの活動を余儀なくされています。今後の予定もなかなか決められずまた、予定しても中止や延期をせざるを得ない状況が今なお続いていますが出来る限りの活動を致しております。9月にキックオフで始まり、第一、第二例会の開催。第二例会ではメンバー4名による「新型コロナウイルスについて」のスピーチ。10月は書家清高院月蓮様をゲストに迎えての花見例会と、第二例会の開催11月はYサアワー例会と第二例会の開催。12月はTBSディレクター大山寛恭さんをゲストスピーカーに招いての開催とクリスマス例会の開催。忘年会は中止し緊急事態宣言が発令されてからは1月の例会を中止している。コロナのおかげで何も出来ないと思うのではなく、今出来る事を探し行動していく考え方に変換しながらも前進しております。各委員会につきましてもZoomやメールを活用しEMCのメンバー増強や、ファンドの収益を図った活動事業、ドライバーによる多彩なゲストスピーカー招集、感染予防対策を徹底した例会の開催、その他の委員会もYMCAの事業協力や寄付などの活動を行っております。そして、今期50周年にまつわる事業に関しても、当初の3月27日開催を5月23日に延期しましたが、記念アクトや50周年記念例会の準備を進めております。今期は最初から最後まで完全にコロナが終息するとは考えられませんが、今の姿勢を崩さずに活動を行っていききたいと思います。コロナに負けず頑張ろうと言いたいところですが、自分や家族を守るのが最優先ですので、しっかり対策をし無理をせず柔軟に活動を行っていききたいと思います。

■上半期を終えて 各クラブ会長



主
題

万能一心

副
題

try one's best
(最善を尽くす)

京都ウエストワイズメンズクラブ

会長 佐治 幹生

ウエストクラブでは、9月までの自粛期間を終えて、10月から、リアルな例会を開催致しました。コロナ禍の中ではありましたが、京都部からも、中村部長・的場主査・中村主査にも、来場頂きメンバーの協力で、入会式を行いました。そして、11月例会でも、竹園西日本区主任・坂口主査にも立ち会って頂き、入会式を行う事が出来ました。新入会員にお声掛け頂いた、メンバーさんは、勿論の事、このコロナ禍でも、例会に参加頂き、入会を決意して頂いた、新メンバーにも感謝致します。最初は、カミカミだった、入会式式文も少しは慣れて(漢字が読める程度ですが(笑))、会長任期の6月には、暗記出来ているくらい入会式を行えればとフツと考えました。今期は、例年にない事で余計に、戸惑う事も多々ありますが、三役さんはじめ、事業委員長さん、メンバーの皆さんに、支えられながら会長職をさせて頂いています。昨年、京都部会の実行委員長をさせて頂き、薄々感じていましたが、会長になって、気付いた事は、メンバー皆さんの、心の懐の深さや、暖かさをすごく感じます。これが、ワイズメンなのかと確信もしておりますが、自分自身まだまだ、未熟な人間ではありますので、すんばらしい～ワイズメンになれるように心がけて任期の6月まで、全う出来るように、精進して行きます。そんな中、芽生えてきた気持ちがあります。そそそそれは、クラブで、最優秀クラブ賞を目指す!!!です。実は、私事ではありますが、小学生からサッカーをしていて、いまだにシニア(OVER50)のカテゴリーにはなりますが、サッカーをしています。今年の、2月から、京都予選のトーナメント予選がはじまり、そこで優勝すれば、関西大会→全国大会と言う流れでした。京都大会で、優勝しまして、そこから、全国大会を見据えて関西大会に向けて(勿論、自粛期間はしておりません)、おじさん達には、少しハードな感じで、練習試合等組んで、サッカーに明け暮れていました。結果は、関西大会の準決勝で負けてしまい、全国大会は逃しました。(怪我でほぼ黒子でしたが)大会も終わり、皆で、話してた時に感じたのが、仕事以外で、本気で、何かを目指す!!!って気持ちがあるって幸せな事で、メンバーの絆も深くなりました。結果は、残念でしたが、それ以上に大切な体験が出来たのは、宝です。そんな、体験をウエストクラブでも味わいたい!と感じました。勿論、無茶なことも多々あるとは思いますが、ウエストメンバー全員で本気で、取り組みば可能だと確信しています。まだまだ、ワイズメンとしては、未熟では御座いますが、～try one's best～で、クラブに取って、かけがえのない宝を見つけれれる会長を目指します。



■上半期を終えて 各クラブ会長



主
題

Everyday is a Challenge!

副
題

～やれるだけ、やりきる！～

京都めいぷるワイズメンズクラブ

会長 藤井 功輔

めいぷるクラブの上半期活動ですが、昨年7月に引継・総会例会を併催とし、前期から今期へのバトンタッチを行いました。2時間で全てをやりきるのはなかなか大変でしたが、メンバー皆様のご協力とホテル側のご対応のおかげで何とか終えることが出来ました。また、7月12日(日)のサバエキャンプ場の開設ワークには当クラブの松村Yサ委員長、井上CS委員長と私の家族で参加させて頂きました。子供たちが無邪気に走り回るので軽トラに轢かれるのではとひやひやしておりましたが、ケガもなく無事に終えることが出来ました。8月第1例会の納涼例会は室町通のホテルひらまつさんで開催致しました。今年はコロナの影響で祇園祭が中止となり、山鉦を目にすることができませんでしたが、ホテル内に役行者山の見送り(山の背面に掛けられる大きな織物)が展示されており、本来疫病を鎮めるためのお祭りが中止になってしまうことにやりきれない思いを抱きつつも、早期収束を願わずにはいられませんでした。8月第2例会は部長「非」公式訪問例会と致しまして、中村部長、中村メネット主査、的場CS主査をお迎えし、京都部の現状と今後についてご講演頂きました。また、当クラブの林壽一ドライバー委員長よりメンバー候補として山田登喜雄様にもゲストとしてご参加頂きました。9月の例会では前月ゲスト参加された山田様の入会式と、支援先の積慶園様、西陣会様よりゲストをお招きし、教育福祉基金の贈呈式と近況をお話頂きました。当日はゲストとして中村部長、竹園EMC主任、坂口EMC主査にもお越し頂き、ニューメンバーにお祝いのお言葉を頂きました。10月第1例会はキャピタル様、洛中様と合同でじゃがいも例会を開催させて頂きました。当日は朝から大雨で本当に大変でしたが、メンバー候補として当クラブの吉本ワイズ、林壽一ドライバー委員長のご紹介で野口治之様にもご参加頂き、風邪をひくこともなく無事に終えることができました。

10月第2例会は前月ゲスト参加された野口様の入会式を行いました。またゲストとして中村部長、竹園EMC主任、坂口EMC主査をお招きし、お祝いの言葉を頂きました。毎月のようにお声がけして大変申し訳ございませんでした。ご臨席頂けましたこと、改めて御礼申し上げます。11月はリトセンオータムフェスタにてカレー販売をさせて頂きました。当クラブのシェイクラジュディンワイズ(インドご出身の方)より、ご自身の営むカレー店「RAJU」で調理したものをご提供頂きました。コロナの緊張の中ではありますが、ご来場の方の笑顔に励まされる思いが致しました。11月第2例会では京都クラブ様より元西日本区理事の柴田善朗ワイズをゲストスピーカーとしてお招きし、当クラブの誕生から現在に至るまでの道のりなど様々なことをお聞かせ頂きました。大変な状況の中、ご講演を頂きまして誠にありがとうございます。12月のクリスマス例会、1月の新年例会、半期総会例会はコロナの影響が深刻化してきたため中止とし、2月以降の例会についても未定といった状況です。全ての行事において直前まで動向を伺いながらではありますが、皆様の健康を第一に考え、無理のないよう下半期も取り組んで参りたいと考えております。



■上半期を終えて 各クラブ会長



主
題

～伝えよう感謝 喜び
そして悲しみも～

京都キャピタルワイズメンズクラブ
会長 五十嵐 由紀

2020年の新年度は“コロナウィルス感染症”が収束しないまま始まりましたが、キャピタルクラブではメンバー・メネットの深いご理解と多大なるご協力のもと、8月第一例会を「納涼懇親会」へ変更した以外は、感染防止対策を行ったうえで全ての例会を予定通り開催することができました。思い返せば9月第一例会を「岡本尚男氏追悼例会」とさせていただいたことが、上半期の例会運営の基礎となり、月2回の例会開催が守られたことにつながり、それが岡本さんの計らいのようにも感じられる今日この頃です。また当会が常々大切にしている「YMCAのサポート」についても、幡南Yサ主査を輩出していることもあり、多くのメンバーで例年通り積極的に協力させていただくことができ、今期の会長職をお預かりした身としては心から感謝しています。ただクラブ独自のCS事業などは残念ながら延期になりましたし、2021年のスタートもコロナウィルスが猛威を振るっており先行きが読めない感もあります。しかしながら、出来る限り「Withコロナ」で対応し、形は変わっても交流を決して絶やさず、おそらく同じような経過をたどるであろう次期以降にも参考になるような運営を目指したいと、そして叶うならば、より困っている方々への支援ができるクラブに成長したいと考えています。また下半期からは、京都部や他クラブの皆様とも交流・連携しながら、あと半年のお役目を全うしたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。



主
題

より強い絆で

副
題

～仲間って本当に
いいものですね～

京都プリンスワイズメンズクラブ
会長 澤田 哲平

今期、早くも半年が過ぎ、後半がスタートしました。
期の始まりから大変難しい状況ではありましたが、何とかクラブを盛り上げようと、メンバーの皆様にご協力していただけたこと、まずは感謝いたします。



プリンスクラブでは例会開催に際し、一つの基準を策定いたしました。これは京都府が設けている「新型コロナウイルスのモニタリング指針」に則したもので、3段階の指標のうち、もっとも軽度である「レベル1」の際には対面による例会を開催、またレベル2以上の場合は、ZOOMを用いたオンライン例会、というものです。恒例のサバエ開設ワークから始まり、8月の第2波が徐々に迫りつつある中、メンバーの安全を第一に考え、このような基準を策定いたしました。8月以降はレベル2以上であることが多く、オンライン例会が続きましたが、出席義務を伴わない「有志の会」を立ち上げ、もちろん安全を第一に、メンバー間で出来る限りの親睦を深めてきました。事業に関しても、DVなどから子ども達を守るシェルター「NPO法人ののさん」への支援や聴覚障がい児のキャンプ支援など、奉仕活動においても上半期は十分な活動が行えなかったため、今この状況下で出来ることを考え、可能な限りの奉仕活動を行うことが下半期、大きな課題と考えています。またプリンスクラブでは来期に35周年を迎えるため、今期はその準備を行う重要な期となります。プリンスクラブの絆をより深めるとともに、ワイズメンズクラブの発展に貢献できるような記念事業を行いたいと模索しています。残り半年ですが、難しくとも楽しい1年だったと振り返ることができるよう頑張りたいと思っています。

■上半期を終えて 各クラブ会長



主題 Let's have fun!

副題 楽しかったと思えるクラブ運営を！

京都センチュリーワイズメンズクラブ
会長 山崎 育男

前期から続くコロナ禍の中で、センチュリークラブも思う様な活動が出来ない状況が続いています。7月はキックオフ例会&総会において、京都部ビデオレターを全員で拝見する事が出来ました。

しかしながら8月に予定をしていた納涼例会は、メンバーの意見もあり、中止としました。また1989年から続けてきた社外福祉法人白川学園さんの夏祭りへの参加と屋台出店も、感染予防の観点から、学園内部のみでの実施となり残念ながらお手伝いをする事は出来ませんでした。このままではクラブとしての活動が委縮してしまうとの思いから、9月からは少なくとも役員会と例会は、顔を合わせて行おうと決心し実施する事に致しました。再開の9月例会はゲストスピーカーを呼ぶ状況でも無いことから、久しぶりのメンバースピーチ例会としました。抑え込んでいたものが大きかったのか、メンバー全員予定時間をオーバーする事となりました。10月は、毎回メンバースピーチとは行かないので、講師に真宗佛光寺派大行寺住職 英月様を講師にお迎えしました。11月は、歌手の永樹様をお迎えして例会を持ちました。

また、毎年参加の京都YMCAリトリートセンターオータムフェスタは、蜜を避ける為に、今年是不参加を決めていましたが、前日にクラブメンバーが、コロナ対策のビニールシート設置や、テントの準備をして頂きました。12月は、フェースシールド等も用意し、クリスマスファミリー例会を持つ事ができました。緊急事態宣言も予想される現在ですが、コロナの状況を注視しながら、下半期もセンチュリーらしい活動を続けて行きたいと思っています。



9月メンバースピーチ例会模様:円卓⇒長テーブル対角席仕様で実施



主題 みんなが会長

副題 奉仕クラブは誰のため

京都ウイングワイズメンズクラブ
会長 天根 静也

ウイングクラブでは上半期コロナ禍においてもできるだけ前向きに活動しようと心がけてまいりました。それでも、上半期の12回の例会中開催できたのは7回。ワークに関しては、サバエの開設ワークとリトセンの秋期準備ワーク並びにリトセンオータムフェスタくらいでした。あとはワイズポテなどの各種ファンドですね。通年であれば11月にはCSの支援先のバザーのお手伝いや12月のクリスマス会の参加でもあるのですが、今期は開催されないということで支援金の贈呈だけになっています。私個人としては半期会長を務めさせていただいて、本当にクラブはメンバー一人ひとりの協力によって支えられていることを痛切に感じました。歴代の会長経験者さんが、「せっかくクラブに入ったんやったら会長は経験すべきだ」とおっしゃられるのがよく分かります。感謝です。なかなかゲストを呼べない中での例会は、アワーの開催がほとんどでした。クラブ歴の長いメンバーのいろいろな体験をお聞きしながら、そういう思い出のある方はこのコロナ禍でも終息するまでの活動自粛は耐えられるなあと思いましたが、新メンバーの皆さんにいかにメンバーとしての矜持を持ってクラブに残ってもらえるようにできるかが下半期の課題だと思っています。

下半期もどうぞよろしくお願いします。



■上半期を終えて 各クラブ会長



主題

この身を捧げ尽くさん

副題

～共に奉仕する喜び～

京都洛中ワイズメンズクラブ

会長 山内 和生

京都洛中クラブ第33期が始まって早半年が過ぎました。年度最初の事業、サバエキャンプ場開設ワークでは、洛中クラブが設置したアーチェリー場の草刈り、的台の設置を行い、アーチェリー用具のメンテナンス費用を寄贈しました。地域奉仕事業として、長年支援

を続けている児童養護施設つばさ園の園児とのふれあいとして、8月4日に、恒例の花火大会を松尾橋にて開催しました。コロナ禍の状況の中、園児達もなかなか外出が出来ないと聞き、もう1日分の花火を提供しました。1番楽しみにしてくれていた、サバエキャンプ場デーキャンプは残念ながら中止となりました。8月以降、なんとか月1回の例会を開催してきましたが、12月には例会を開催出来ませんでした。昨年6月8日に、洛中クラブの中心的メンバーの太田雅彦ワイズが、ガン闘病の末に亡くなられました。クラブメンバーには大きな悲しみとなりました。お別れが出来なかった為、偲ぶ会例会として、9月にOB、メネットと共にお別れと感謝の会が出来たことは、メンバー皆の大切な思い出となりました。例会が少なくなった分、役員会が貴重な意見交換の場となり、活発な議論が出来ました。下期もまだ事業計画の変更、中止があるとは思いますが、メンバー全員で工夫して奉仕していきます。



主題

楽しもう！奉仕の繋がり

副題

義
(人の行いが道徳・倫理にかなっていること)

京都エイブルワイズメンズクラブ

会長 山根 拓也

2020年2月15日に設立30周年記念例会が、横浜のダイヤモンドプリンセス号で発覚した新型コロナウイルス感染報道の直後に開催することができました。そのあとも世界中に感染が

広まり色々なイベント、会合など自粛ムードとなりました。4月には政府より「緊急事態宣言」が発令され、ワイズ活動も感染防止のため活動を自粛ムードとなりました。30周年の記念例会を終えて燃え尽き感もあり例会など休止することとなりました。6月に入って引継ぎ例会はメンバー、メネットさんのみの参加で執り行いました。31期に入っても世界のコロナ感染は終息の兆しも見えず、例会は自粛することとしました。そんな中ではありましたが8月7日パルテール京都での納涼会に参加、10月27日(火曜日)少しコロナ感染が日本では落ち着いた雰囲気、久々の例会を開催しました。内容は山根拓也会長がお世話されている「アイバンク」のお話しでした。その後も終息の兆しも見えず再び休止状態となりました。でもリトセンワークの参加、オータムフェスタの参加、YMCA同盟、東山荘支援ゴルフ大会、名古屋YMCAチャリティーゴルフ大会へ参加。京都YMCA支援「ロングランゴルフ大会」への参加など屋外の事業参加をしました。2021年になってもウイルス感染の拡大で再度緊急事態宣言が発令され、クラブ活動は休止状態となっております。



納涼例会／パルテール 京 都・サマーバイキング

■上半期を終えて 各クラブ会長



主題

友と共にチャレンジしよう!

副題

Smiling forever
～ずっと笑顔で～

京都グローバルワイズメンズクラブ
会長 島倉 泰三

昨年の初め頃から世界中で蔓延している新型コロナウイルス感染症の影響により、感染防止対策に努めながらのクラブ運営が続いています。前期、64名のメンバーが所属する我がクラブでは【大所帯だからこそ、絶対にクラブから感染者を出さない】を目標に例会前の検温・消毒等はもちろんのこと、ソーシャルディスタンスを保つ為、京都市の感染者数の増減に合わせて席の配置を従来の円卓ではなく全員が正面を向くスクール形式に変更するなど柔軟に対応しながら会の運営に努めてきました。幸いキックオフ例会は開催にこぎつけましたが、皆が楽しみにしていた2V例会・3クラブ合同例会・修光まつり例会・クリスマス例会などのビックイベントを含む5回をやむなく中止といたしました。この様に多くの制限が生じるコロナ渦ではありますが、今期の主題『友と共にチャレンジしよう!』とメンバー一丸となって出来る限りの活動を行ってきました。熊本県令和2年7月豪雨災害時には、DBC熊本クラブさんに20万円を超える災害支援金を届けました。また、毎年お手伝いをしている修光学園さんには感染防止用パーティションを寄贈すると共に、制作されたマグカップ、マスク、シュートレンなどを購入し活動のサポートを行いました。

我慢と努力だけでは解決出来ない未曾有の危機の最中でも、残る半期も出来る事を模索しながら活動を楽しみたいです。一日も早くワイズメン同志が笑って握手できる日が来ることを祈っております。



主題

崖プチ

副題

悪あがき

京都みやびワイズメンズクラブ
会長 奥谷 彰宏

みやびクラブの活動はほぼしておりません、キックオフ例会を最後に例会は行っておりません、隔月で役員会を三条YMCAにて行っております。

ファンドのポテト、CSの通学園へのポテト、クリスマスケーキ寄贈。

Yサではサバエワーク、リトセンオータムフェスタ、クリスマスロビーコンサート(配信)

下半期に予定していたチャリティーボーリングの開催場所を仮押さえし、お見積り等を頂き、参加費用等を盛り込んだゲラを作成しましたが、コロナウイルスの蔓延にて中止させて頂くことになりました。



■上半期を終えて 各クラブ会長



主題

心即太陽

副題

熱い心で、リーダーシップを
発揮しよう。

京都トップスワイズメンズクラブ
会長 清水 寿和

京都部のメンバーの皆様、いつもお世話になっております。下半期もよろしくお願い致します。上半期はコロナ渦にありながら各月例会が開催されメンバーの皆様には大変感謝しています。しかしながら懇親会系の例会は開催できず、EMCの強化もできませんでした。例会は全てハイブリッド開催し、コロナ感染対策を万全に行いました。委員会活動もハイブリッドやZoom開催等いろいろな形式で開催されてうれしく思います。又、未来に向けて新しい取組みも提案され、半期総会で承認される予定です。奉仕、親睦、勉強会の3本柱を強化する目標を立ててスタートしましたが、特に勉強会においてトップス経営塾に加えビジネスに特化した新しい取組みを計画しています。クラブの新しい柱として下半期に取り組んでいきます。その他、我がクラブからの場CS主査を輩出していますのでCS活動に力を入れています。具体的には各種献金や献血活動に力を入れています。

下半期は課題となっているEMCの強化に重点を置いていきます。コロナ渦ではありますが目標のクラブ70名体制、20名会員増強に向けて邁進していきます。次期理事輩出クラブとして準備活動も忙しくなりますがメンバー1人1人がリーダーシップを発揮し結束力を強化し西日本区の先頭に立つクラブとして頑張っていきます。合同例会等、開催が難しい現状ですが見込みがつかましたら他クラブの会長の皆様、宜しくお願い致します。次期に向けていろいろとご協力頂きたい事が出てくると思いますが、その節は宜しくお願い致します。



主題

Let's TRY

副題

～基本を忘れず、
いろんな事に挑戦しよう～

京都トゥービーワイズメンズクラブ
会長 馬場 昭宏

京都トゥービーワイズ 会長の馬場です。

上半期はコロナ禍の中、活動が自粛される事業が多く例年と同じ事業が出来ていない状況です。ただ、その中でも例会はオンライン等を使用し、開催をしていくことが出来ました。Yサ事業はすべて自粛となりましたが、予定していた予算をYMCA活動支援として寄付させていただきました。CS事業もお祭り等の支援なので、開催中止となっております。ただ、他に何かお手伝いできないかと検討し、クリスマスプレゼントを贈る支援をしました。交流事業は、オンラインが普及したことにより、普段ではなかなか会えないDBC・IBC先とオンラインで交流することが出来ました。また、直接の交流が出来ないので、疎遠にならない様、SNSを使用し、DBC・IBC先へ当クラブの新年レターを送ったりしております。下半期は出来る限り、予定している事業を進めていきたいと考えております。既に、大きな事業で、中止の発表がされているものもありますが、何が出来るかを話し合いながら出来ることをしていければと考えております。例会はコロナ禍ではありますが、メンバー同士が顔を合わせないと希薄になってしまう傾向がありますので、何らかの形でメンバー同士が定期的に顔を合わせる例会を開催できるよう努めていきます。残り、半年例年とは違うことが沢山ありますが、精一杯務めていきたいと思っております。



■上半期を終えて 各クラブ会長



主題 ソーシャル パーソン
「a thoughtful person」

副題 思いやりの心で楽しむ活動を

京都東稜ワイズメンズクラブ
会長 刀根 健志



京都東稜クラブはコロナ感染症の影響で前期(2020年12月31日)は活動休止としておりました。しかしクラブとして何かできることはないかと考え、まずはコロナの影響を受けているクラブメンバーへ、少しでも負担が減るように部内で調査、打合せ、協力を行い、わずかながらお手伝いをする事が出来ました。また第2例会(クリーン例会)は外部作業でコロナの影響がないとの事で、6月から開催いたしました。(6か月合計メンバー245名 ゲスト4名 コメント3名 メンバー出席率40.8%)また10月には丹波黒豆狩りツアーを開催、11月には新メンバーのオリエンテーションを行いました。12月には前期の引継ぎが出来ていなかった為、引継ぎ例会を開催することができました。また1月再開に向け三役員、運営委員会はコロナ対策でZoomや会場を広くして、行ってきました。後期1月より活動再開としていますが、まだまだコロナ対策を徹底しながらの活動となりますが、東稜クラブメンバーの健康と安全を第一優先で、活動していきたい思います。1月の半期総会には新メンバーの入会式もあり、良いスタートダッシュが出来そうです。第2例会でもありますクリーン例会ですが、前期出席率は40.8%と低いのは、決まったメンバーしか出席していない状況が今までの東稜クラブの実状だからです。「誰かがやってくれているし欠席でも大丈夫」ではなく、「誰かが頑張っているんやから一緒にがんばろう」となり楽しむ活動が出来たらと思います。後期出席率70%平均10名を目指します。



主題 自他共栄

副題 ～心と心でふれ会おう！～

京都ウェルワイズメンズクラブ
会長 中村 典子



今期の始めは新型コロナウイルスが猛威を振るう中、どのような活動が出来るのか、不安と手探りの状態でスタートしました。ホテル例会に関してはZOOMと対面とのハイブリット開催や、消毒やソーシャルディスタンスの励行等、色々と工夫を凝らして頂きながら中止する事無く開催出来た事を感謝致します。野外例会に関しましても、YMCAの事業の中止が多くあった為、例年に無くメンバー間やゲストの方々と交流のもてる例会が行え、“怪我の功名”もあったのかなと感じております。年内最後の例会としては、今期CS主査が計画された“クリーンアップキャンペーン”として京都部の先陣をきってウェルクラブ初となるお掃除例会を行う事が出来ました。田栗サンタがウェルクラブの旗を持ち、広報PRにもなり一年の締め括りとして相応しい例会になったと思っております。皆様、寒さ厳しかった中お疲れ様でした。まだまだ先が見えない中、下半期を迎えますが、若き力の新メンバーと共に「楽しくなければウェルじゃない!!」を忘れず活動して行きたいと思っておりますので、ご協力の方宜しくお願い致します。

■上半期を終えて 各クラブ会長



主題

「人」

京都 ZERO ワイズメンズクラブ
会長 山田 維久仁

今期はコロナ禍にキックオフとなりましたが、休止することなくZOOMを活用した委員会、役員会が行えたこともあり、例年と違い2回例会が1回の開催となってしまいました。7月から12月まで行う事が出来ました。8月、11月はリトセンを使つての野外例会(ハイブリッド例会)で多くのメンバーにご参加いただき楽しいひと時を過ごす事が出来ました。上半期に新メンバーも3人加わりメンバー数も増加致しました。また、Week4Waste事業として日向大神宮でのCS清掃事業や、京都府立医科大学付属病院小児病棟には大文字送り火鑑賞会が開催できなかった為、希望のおもちゃを寄付するなど、コロナ禍でも工夫を凝らした事業運営を行なっております。

下半期の1月に入り、コロナによる状況も悪化し、基本的に対面による活動は自粛せざるを得なくなりました。上半期に延期した、我がクラブの10周年記念例会も今期中の開催は断念し、15周年記念事業として5期後に託すこととなりそうです。ただ、対面は自粛しつつも、ZOOM活用に戻り、メンバー同士の交流は引き続き行っていきます。当分の間、今の状況は改善することは厳しいと思いますが、さらに工夫し、メンバーの支えとなるような活動を行っていききたいと思います。



主題

Begin Again

副題

今できることを一つずつ

北京都フロンティアワイズメンズクラブ
会長 足立 徳仁

今期は新型コロナウイルス感染症禍のクラブ運営となりましたが、期初は京都府北部では感染者が少なかったため、7月より通常の例会運営を進めて参りました。7月の総会をスタートとして、8月例会では新たに3名の新入会員を迎え幸先の良いスタートを切りました。10月例会では京都キャピタルクラブより大門ワイズにお越し頂き、プロ野球でのご経験を基に、プロとしての心構えや仕事に向き合う姿勢、また指導者として子供たちの心技体を成長させていくための多くの学びを頂くことができました。多くの学童野球の指導者を交え例会を開催することで後に行う、「YMCA杯学童野球大会」に向けての機運を高める例会を行うことができました。11月には新たに1名の仲間を迎え、今年度のフロンティアクラブのメインイベント、「YMCA杯学童野球大会」を実施いたしました。初日が雨での順延となり、寒い中での開催となりましたが、舞鶴市内より9チーム150名以上の子供たちに参加いただき、主催した私たちも心から感動する大会となりました。来年も実施して欲しいとの声を多くいただいておりますので、次年度はより良い大会となるよう引き継いでいきたいと思います。1月以降は緊急事態宣言も発令され、また集まりにくい中での運営となってまいります。今できることを、今だからできることを考え下半期の運営にあたっていきたいと思います。



YMCA杯学童野球大会開催式の様子



Let's do
it now!!

2020-21 年度

西日本区理事 古田裕和

ワイズメンズクラブ国際協会

2021 年
6月5日 土
6月6日 日

第24回 西日本区大会

大会会場，懇親会，
ウェスティン都ホテル京都

ホストクラブ
京都トゥービークラブ

All is well.

2022 に向け誇りを持って